

## 9 学年 英語科学習指導案

生徒 9年(男子 7名 女子 5名 計 12名)  
指導者 教諭 箱山 聡子

### 1 単元名 My Project 8 日本文化を紹介しよう (Sunshine book 3)

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、自分が住む地域や伝統行事、祭りなどについて紹介する英文が書かれている。この教材をモデルにしなが、事前に原稿を書き、練習した上で発表活動につなげ「読む」「書く」の活動を統合的に行うことができる。また発表活動では「話す」「聞く」活動を行い、4技能を統合的に指導できる教材である。

また、分詞の後置修飾など、既習文型を活用して、物事を説明するために使える英文を使うよう意識させたい。

##### (2) 生徒観

本校で行っている「ふるさと科」の学習に、生徒たちは意欲的に取り組み、郷土愛に対する愛着も誇りも十分に感じている。1学期のアンケートによると、100%の生徒たちが「ふるさとの良さに目を向けることができた」「地域のために何か頑張りたい」と回答している。郷土芸能についての紹介を英語で伝えようという題材は、生徒たちにとって意欲的に取り組めるものであると考える。

9学年の生徒は、昨年度の岩手県学習状況調査において、62.8の正答率であった。領域別にみても、全領域・観点において、県平均を上回っている。特に秀でている観点は「表現の能力」県比140.8で、今後更に指導していきたい領域は「聞くこと」県比103.8である。これは、7学年のころから「表現する機会」を多数設け、表現することに抵抗感がないことから、力がついていると考えられる。一方で、発信はできるが受け取ることが苦手なことから、「聞くこと」が伸び悩んでいると考える。

今後、授業のなかでも生徒同士の「やりとり」を継続的に行わせることで、相手が伝えたいことを聞き取る力を伸ばしていきたい。そのために、継続的に Small Talk を取り入れて、即興的なコミュニケーション能力も育てていきたいと考える。

##### (3) 指導観

単元のゴールを、「吉里吉里の郷土芸能について紹介しよう。」に設定し、自分が「ふるさと科」で活動している郷土芸能について、グループで話し合いながら英文を作り、発表させていきたい。

生徒は「ふるさと科」の授業で「太神楽」「鹿踊」「虎舞」の3つのグループに所属している。それぞれの歴史や踊りの種類、衣装などについては、小学校3年生から学習を積み上げてきている。それを使いながら、それぞれの郷土芸能について英語で説明するときに、自分が一番伝えたいことについての紹介文をつくり、グループでまとめて仕上げさせたい。発表についても、自分が伝えたい部分を分担して発表できるよう配慮していく。

#### 3 指導目標

- ・郷土芸能についての紹介文を積極的に相手に伝えようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・郷土芸能についての紹介文を英語で書き、内容が伝わるように発表することができる。【外国語表現の能力】
- ・ハロウィンや十五夜についてのスピーチの原稿を正しく読み取ることができる。【外国語理解の能力】
- ・郷土芸能についての英文を文章構成について考えながら書くことができる。【言語や文化についての知識・理解】

#### 4 指導計画及び評価計画（全6時間）

時間	学習内容	意欲・関心・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	単元の目標を確認しよう。	単元のゴールを確認し、意欲をもって学習に取り組もうとしている。			このプログラムで使われる新出語句を発音することができる。
2 3	「ハロウィン」「十五夜」についてのスピーチの英文を読んで内容を理解しよう。			英文を読んで、スピーチの内容を理解し、より伝わりやすい文章構成について説明することができる。	
4 5	「ふるさと科」で学習した郷土芸能についての紹介文を書こう。		郷土芸能についての紹介文を英語で書くことができる。		より伝わりやすい文章構成でスピーチを書くことができる。
6	郷土芸能についての紹介文を英語で発表し、吉里吉里にきた外国人に伝えよう。	自分の言いたいことを、相手に伝えようとしている。	相手の顔を見て、わかりやすい発音と十分な声量で説明することができる。	発表を聞いて他の郷土芸能の特徴について聞き取ることができる。	

#### 5 本時の指導（4／6時）

##### （1）目標

郷土芸能について自分の伝えたい事柄とその根拠を英語で書いて伝えよう。

##### （2）本時の構想

###### ①主体的・対話的な学び合いの工夫について

郷土芸能の紹介文で自分が紹介したい話題を選び、なぜそれを選んだかの根拠を述べられるよう準備させる。自分の意見が固まったら、グループ活動を行わせ、司会者を決めて、それぞれが自分の意見と根拠を英語で述べられるように促す。一人が発表したらその考えに対して感想や同意をお互いに表現できればよいと考える。

###### ②授業と家庭学習との連動

本時で学習したことを振り返り、生徒個々の課題を持たせる。その課題をノートに記入させ、自分の家庭学習として取り組ませる。

##### （3）本時の評価規準

目標	おおむね達成（観点）	未達成の場合の支援
郷土芸能について、自分の伝えたい事柄とその根拠を英語で書いて伝えよう。	自分の伝えたい事柄と、その根拠を既習事項を使って英語で書いて伝えることができたか。【表現】	・英文のモデルを参考にさせながら、部分的に変えて自分の考えを表現させる。

(4) 展開

段階	学習内容及び学習活動	・指導の手立てと留意点 <span style="float: right;">◇評価</span>
導入 8分	<p>(2分前学習)</p> <p>1 あいさつ 元気に英語で挨拶をする。</p> <p>2 Small talk “the memory of Kirikiri festival”</p> <p>3 学習課題の提示</p>	<p>・単語の書き取り小テストを行う。</p> <p>・日付、曜日、天候についてたずねる。</p> <p>◇評価 1つのペアに加わりながら、やりとりをみとる。</p>
<p>学習課題：郷土芸能について自分の伝えたい事柄とその根拠を書いて英語で伝えよう</p>		
展開 35分	<p>4 既習事項の確認</p> <p>●自分が伝えたいことを表現するにはどんな英文はあるだろう。</p> <p>○ I want to talk about ～.</p> <p>○ The reason is that ～.</p> <p>5 自分の考えをまとめよう。</p> <p>●自分で伝えたい項目について述べ、その理由を英語で考えてみよう。</p> <p>6 グループ内で発表しよう。</p> <p>●グループごとに、司会者を決めて発表し、それぞれコメントも返そう。</p> <p>7 グループで発表原稿を考えよう。</p> <p>●でてきた意見を使いながら、グループでどんな内容の組み立てをするか、考えを出し合おう。</p>	<p>・伝えたいことをリストアップし、選んで書けるよう準備しておく。</p> <p>(origin and history / name and when it takes place / old customs / relationship with today / costumes / a kind of dances / the meaning of dances ...)</p> <p>・ワークシートを使いながら、自分の考えをまとめさせる。</p> <p>◇自分の伝えたい事柄と、その根拠を既習事項を使って英語で書いて伝えることができたか。【表現】 (ワークシート記述で評価する)</p> <p>・事前に司会者は決めておく。</p> <p>・一人一人発表させ、その後コメントを伝えさせる。</p>
終末 7分	<p>8 まとめと振り返り</p> <p>●自分の伝えたいこととその根拠を英語で伝えるには、どんな英文が使えたか。</p> <p>○生徒の例を提示する。 家庭学習の課題を記述する。</p> <p>9 挨拶</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>英語 振り返りのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 気づいたこと</li> <li>2 すっきりしなかったこと</li> <li>3 友達の考えを聞いて思ったこと</li> <li>4 今後の学習に役立てたいこと</li> </ol> </div> <p>・次時にはグループで原稿を完成させることを告げる。</p> <p>・英語で挨拶をする。</p>